

こんなん  
してます。

わだいのついで

— 110 —

### 風力発電

高速道路を走り、広川町に差し掛かると山上に緩やかに回る白い風車の列が現れます。有田川と日高川の間を東西に延びる白馬山脈の尾根に沿って何十基も空に向かって立っています。ここは年間を通じて強い風が吹く風車の適地とのことで風力発電が集まる場所となっているのです。

風力発電は自然エネルギーの代表選手。自然エネルギーとは、風の力や水の力、太陽光、動植物など自然から作るエネルギーのこと。石油や石炭

のように枯渇することなく、どこにでもあり、使用しても速やかに補充足される、CO2を排出しないなどの利点があります。

和歌山県は県土の4分の3が森林であり、日射量も降水量も多く自然資源による発電の可能性がとても高い県なのです。

同様にCO2を排出せずに、大量の電気を安定的に作る原子力発電は強い放射性廃棄物である使用済み核燃料がたまり続け、ひとたび事故が起これば、先の福島原発事故のように取り返しのつかない環境破壊と人命への

## ゴジラと人間

深刻な影響があるため、世界では脱原発を掲げ自然エネルギーが政策の中心になってきています。

風力発電は世界ですでに原発に匹敵するほどの発電量を持つほどに広がっていますが、狭い国土の日本ではメリットもあればデメリットもあります。

熊野古道を抱く美しい緑の稜線に巨大な人口構造物が並ぶのは景観的にどうでしょうか？ 鳥が

羽に巻き込まれたり、モーター音や耳には聞こえない低周波音による健康被害も報告されています。

### 眠れるゴジラ

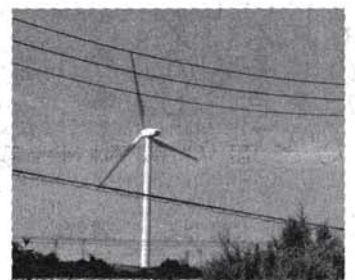
風車の近くの山道や集落を行くと、その巨大さを実感します。そのような時、風車が並ぶ山の端から、バババツ、バババツというテーマソングと共に大きなゴジラが現れるような気がします。筆者の潜在意識なのですが、子どもの時に見た映画の不穏な恐れを思い出すのかもしれない。

『ゴジラ』は怪獣映画の先駆けでシリーズとなった人気映画。初期の設定は、太古以来、海底奥深くに潜



山上の風車

科学と生活との共存へ



動に不可避の生産において、化石燃料、原子力、再生可能エネルギーなど、選択の悩みは、経済と生命の選択における葛藤に尽きます。人類はこのジレンマの中で発展しつつにFUKUSHIMAを迎えたともいえます。

光も影も自ら引き受けて、自分たちでエネルギーを作ろうという市民参加型発電もじわじわ増えています。経済と環境と生存との際どいバランスが問われている現在、ゴジラではなく当事者としての市民の「良識」こそが覚醒しなければ

走ともいいます。エネルギーという人間活動

湯崎真梨子(ゆざき まりこ)

和歌山大学産学連携・研究支援センター 教授

専門は、農村社会学、地域再生学。自らが研究するだけでなく、地域と大学が共に成長するプロジェクト研究をコーディネートしている。



プロフィール